

Herbert Fleisch Workshop 2016 に参加して

徳島大学藤井節郎記念医科学センター

高士祐一

この度は IBMS Herbert Fleisch Workshop Travel Award 2016 をいただき、誠にありがとうございました。2016 年 2 月 29 日より 3 月 2 日まで、ベルギーのブルージュで開催されました同ワークショップに参加してまいりました。ブルージュは昔ながらの街並みが残されたきれいな街で、静かで落ち着いた雰囲気の中ワークショップは行われました。

本会のプログラムは、細部まで工夫が凝らされた大変素晴らしいものでした。ASBMR などの大きな学会とは異なり、小規模なため他の参加者と共有する時間が多く、密度の濃い 3 日間でした。まず、メインの講演に関しては 6 人の世界を代表する招待演者の講演の後に、若手研究者による発表が行われました。この構成により、当該分野のオーバービューおよび最新のトピックスを聞いた後に、各国の若手研究者による現在進行中のフレッシュな研究内容を聞くことができ、深い理解と共に、同世代の若手研究者がどのようなテーマで、どのような手法を用いて研究を進め、どこを今後の課題としているのかを詳細に知ることができました。大きな刺激を受けると共に、大変参考になりました。また、ポスター発表は自由討論形式で十分な時間が設けられ、各国の Senior investigator の先生方からご意見をいただくことができ、特に同じ分野の若手研究者とのディスカッションは大いに盛り上がりました。

そしてアカデミックな議論の合間には、ランチやディナー、シティーツアーも用意され、ブリュージュの美味しい食事とビール、美しい街並みや歴史を堪能しながら、主催者である Bouillon 先生を初めとする Senior investigator の先生方と交流し、同世代の若手研究者との友好を深めることができました。特に、国外の若手研究者がどのような環境で、どのように研究に従事しているのかについて情報交換できたことは有意義で、兼ねてより希望していた留学へのモチベーションがさらに高まりました。

個人的には、本ワークショップで初めて国際学会における口演発表を経験させていただきました。私は現在、骨とリン代謝をテーマに研究を進めています。骨細胞が分泌するホルモンである線維芽細胞増殖因子(Fibroblast growth factor; FGF)23 のリンによる活性調節機構を解明し、ひいては骨細胞のリン感知機構に迫り、骨-腎連関の真髄を明らかにすることを目標としております。大いなる緊張の中ではありましたが、事前の準備の甲斐もありなんとか無事に発表を完遂することができました。多くのご質問をいただけたことは大変に光栄なことでしたが、私の拙い英語と相まって十分な議論ができず自らの未熟さを痛感いたしました。しかし、発表後にオーストラリアの Martin 先生からお褒めのお言葉をいただけたことは自信になりました。

本会を通じて非常に貴重な経験をさせていただく中で、骨が持つ非常に多彩な生理機能を明らかにしていくことの意義深さを再認識いたしました。最後に、このような貴重な機会をサポートさせていただきました、田中栄先生を初めとする日本骨代謝学会関係諸先生方に心より御礼申し上げます。

